ダーナ●第34号
発行日●令和元年９月９日
発行人●広瀬卓爾
編集／発行●浄土宗平和協会（JPA）
「ダーナ」とは
サンスクリット語で
「布施」の意

Dāna ダーナ

VOL. 34

JodoShuPeaceAssociation

INDEX ●山北副理事長に聞くPage1●平和賞受賞者報告Page2
●平成30年度事業報告Page4●令和元年度事業計画Page6
●サポートレポートPage8●ヒバクシャ国際署名Page10
●浄土宗平和協会（JPA）Page12

◆山北光彦副理事長に聞く

対話から世代を超えた「平和」への想いの醸成を

昨年度から図らずも副理事長の任を引き受けましたが、浄土宗平和協会への関わりは、浄土宗平和推進協議会の設立までに遡りますから、おおよそ30年ほど前になります。

当時、設立に中心となっていた上人方の多くは、戦前、もしくは戦中生まれでしたから、「平和」というと「戦争でない状態」のこと、という価値観が比較的共有しやすい環境にあったと記憶しています。しかし、戦争を知らない世代が世の中の中心となった現代、「平和」に対するイメージが多様化しているように感じます。

先日の朝日新聞の『平和、伝えるために』という記事でも、「新聞は戦争をどう伝えていけばいいのでしょう。平和って何ですか。戦争がなければ平和と言えるのでしょうか……」という問題提起がされていました。

同社記者や有識者の座談会形式の記事中には、「教育現場では平和を考えさせるきっかけ作りが出来ていない」や「新しい感性と切り口で平和の意味を現代に投げかける人が出てきている」、「いまの日本社会は、あまり対話がないまま物事が進んでいるという危機感を覚える。対話がなければ平和はない」など、浄平協が取り組む活動を考えるきっかけとなるような文言が見て取れました。

記事は、「平和の２文字を手がかりに考えたいのはこうした戦争や核に絡む問題に限らない。日常の平和の中に潜む生きづらさや子どもの命についてもそうだ。平和をめぐる根幹の報道を進化させつつ、こうした社会課題への広がりも意識して、今日の議論を明日の仕事につなげていきたい」と結んでいました。

廣瀬理事長体制となってから、協会の課題の根本は、「平和」の意味をどう捉えていくのかということでした。理事会を始め、各種会議で議論を深めようとしているのですが、なかなか容易に結論の出る問題ではありません。

そんな中、理事長から平和教育の事業を立ち上げたいとの提案があり、今年度は宗門高校の生徒から『平和への想い』というタイトルで作文を募集しようということになりました。素晴らしい着眼だと思います。

朝日の記事の通り、「対話がなければ平和はない」のです。世代間の価値観の違いや「平和」への想いをどうつなげていけるのかを浄平協の活動の中で、その手がかりを投げかけることができればと期待しています。

従来の活動も、原点回帰、つまり意義を今一度問い直すことが必要だと考えています。ＮＧＯ・ＮＰＯ支援事業、ブック・ギフト、浄土宗平和賞、どれも10年以上続く中で、意義とともに事業のあり方を理事会や専門委員会で議論をしていきます。

ぜひ、会員のみなさんからもご意見をお寄せいただきたいと思います。

Report

令和元年度浄土宗平和協会総会を開催

平和賞はカワセミクラブに途上国の支援活動を評価

浄土宗平和協会令和元年度総会は５月14日、宗務庁（京都）で行われ、平成30年度の事業・会計報告、令和元年度の事業計画・会計予算などが審議、承認された。

特に、令和元年度には、従来事業に加え、戦争と教団の関わりを資料としてまとめることや青少年の平和教育に取り組むこと、会則を改定して専門委員会を設立することなどが提案された。このほか、「ヒバクシャ国際署名」への協力や平和基金の運用方法を変更し、活動費に充当できるようにすることも承認され、令和元年度の浄土宗平和協会が動き出した。

福原台下より表彰を授与される小泉師

総会の席上、「第11回浄土宗平和賞」の授賞式も行われた。今回受賞したのは、途上国の支援活動を行う「カワセミクラブ」。カワセミクラブは、小泉顕雄師（京都教区・教伝寺）が2014年に設立。小泉師のフィリピンの貧困層に対する個人的な支援に始まり、活動が広がりをみせるに連れ、浄土宗教師や檀信徒を巻き込みながら、組織化し、カワセミクラブへと発展していく。それに伴い、活動の対象も個人から共同体へ、また支援内容も物資の提供による支援から、当事者の自立支援へと変化していき、現在では地元の園部高の生徒たちを派遣し、現地で交流する企画も実施している。

感謝の言葉を述べられる小泉師

授賞式では、浄土門主・伊藤唯眞猊下の代理として大本山百萬遍知恩寺法主・福原隆善台下が、小泉師に賞状を手渡した。小泉師は「支援を続けることで交流が生まれ、私自身がたくさんの喜びをもらっている」と、人と人がふれあう、地域に根差した海外支援のやりがいを語った。

浄土宗平和賞は、社会参加する寺院、住職、団体を顕彰しようと、平成21年より設けられた。選考は、３月に行われた浄平協理事会に実施され、カワセミクラブに決定された。

浄土宗平和賞を受賞して

NPO法人カワセミクラブ
理事長　小泉　顕雄
（京都教区教伝寺住職）

この度、途上国の貧困者支援を続けてきた私たちの「カワセミクラブ」が浄土宗平和協会から栄えある浄土宗平和賞を授与いただきました。

私たちはこれまで約10年にわたり、特にフィリピンのマロロス市（マニラ北西部のブラカン州の州都）という街を拠点にして貧困世帯の自立支援、貧困集落への食事や物資の提供、貧困故に就学出来ない児童の就学支援、日比両国の青年の相互訪問と交流、里親支援、地区行政事務所や小学校、高等学校への情報処理備品（パソコンやモニターなど）の寄贈などなど多岐にわたる事業に取り組んできました。限られた財源の中で多くの事業尾遂行することは困難を伴いましたが、幸い多くの理解者を得て活動を継続することができ、今日に至っています。

幸いこれらの活動は現地でも高く評価され、これまでに数多くの感謝状などをいただきましたが、今回浄土宗平和協会により我々の活動を認めていただき、平和賞を授与していただいたことは何にもまして大きな勇気と希望をいただくことになりました。

ここ数年もっとも重視している事業は、日本の高校生を現地に派遣し、貧困集落に入らせ、自らの手で調理した食べ物を住民に配布することを通じて、途上国の貧困の実態に直接触れ、まだまだ世界には取り残されたままの状態の人々が多いこと理解し、世界に目を開かせるというものです。

平成27年に初めて派遣した一人の男子高校生が帰国した時、学校の先生が、「一人の高校生がほんの数日の体験によってこれほどまでに変わるのかと」と驚嘆の言葉を発せられたことを忘れることができません。彼は東京の大学に進学し、国際的な活動にも力を入れていると聞いています。今回いただいた副賞は今年度もこの事業を継続する財源利勝用させていただきたいと考えています。

なお、受賞と時を同じくするように、カワセミクラブはＮＰＯ法人の認可を受け、新たな歩みを始めました。多くの方々の一層のご理解をお願いしながら、劈頭宣言の「世界に共生を」を堅持していきたいと決意しています。

浄土宗平和賞とは？

昨今、改めて「社会参加する仏教」という言葉が提唱されています。本来、宗教的救済すなわち教化と、社会事業的実践は不可分であるといえましょう。

時代の急激な変化が大きな社会矛盾を抱え込むこととなった明治期、貧困の救済をテーマに各宗派・各教団が積極的に慈善事業に取り組み、足尾銅山鉱毒事件や東北地方の大飢饉の災害救済活動にも、宗派を挙げての活動が成果を挙げました。また我が宗に於いては、児童擁護施設の建設や児童教育のほか、渡辺海旭師の主導のもと、各種の貧困対策事業が開始されています。これらは、後に大きく発展する浄土宗の社会福祉事業の礎となりました。

現代に目を移すと、戦後の高度成長時代を経て、日本の社会は大きく変化を遂げ、共同体や家族の崩壊は数々の社会問題を引き起こしています。このような状況において地縁・血縁を基とした伝統的寺院のあり方に加え、地域コミュニティの再構築、共同体の回復の核となる役割も期待されています。かつては貧困の救済が主なテーマであった各社会事業も、現代においてはグローバル化や社会問題の複雑化に伴い、多岐にわたる対応が求められています。

本協会は「共生（ともいき）」の理念を基に、一切の生きとし生けるものの安寧と平和を願う仏教者として、「社会参加する仏教」を推進しています。この度の「浄土宗平和賞」の創設は、各地で積極的に社会活動をなさっているご寺院・教師・寺族等の方々を顕彰すると共に、その活動内容等を広く会員にご紹介することによって、公益に資する未来の寺院のあり方のモデルとなり、格好のケーススタディと成り得ると考えています。

浄土宗平和協会 年次レポート

平成30年度 事業報告

浄土宗平和協会（ＪＰＡ）では、浄土宗勢頭宣言にある「愚者の自覚」に立ち、「世界と共生する」ために、平和の問題に取り組み、皆さまから寄せられる浄財・平和念仏募金によりＮＧＯ・ＮＰＯ支援、ブック・ギフト活動、浄土宗平和賞、スタディツアーなどの事業を行っております。

ここでは、平成30年度の事業を報告するとともに、運営状況などを報告いたします。

ブック・ギフトは平成30年度も東京、関西、名古屋で実施

ブック・ギフト活動は、浄土宗平和協会（ＪＰＡ）の主要な活動の一つで、東京都、愛知県、関西圏の大学・大学院に通学する私費留学生を対象にした事業です。与えられた小論文課題を日本語で提出し、審査を経て合格した学生は、希望する図書を受領できるというものです。

平成30年度のブック・ギフトでは、希望図書の金額上限額を専門書２万円以内として実施しました。これは、研究に必要な書物を贈呈することを想定した場合、専門書は総じて高額であることは鑑みてのことで、留学生からは歓迎の声が多く聞かれました。

授与式は、過年度通り、東京（大本山増上寺）、名古屋（建中寺）、京都（大本山百万遍知恩寺）の３ヵ所で12月に行われ、合計46人の留学生が希望図書を受け取りました。

第11回 浄土宗平和賞は「カワセミクラブ」が受賞

浄土宗平和賞は、浄土宗寺院・教師、または浄土宗教師が代表を務める団体が行う平和・環境保護・国際交流・地域福祉などへの貢献活動を顕彰し、支援することを目的としている事業です。

第11回の浄土宗平和賞は、小泉顕雄師（京都教区教傳寺住職）が会長を務めるフィリピンなど途上国の貧困層支援に取り組む「カワセミクラブ」に授与しました。

2014年に設立された同クラブは、当初、フィリピンの貧困層に対する個人的な支援に始まり、活動が広がりをみせるに連れ、浄土宗教師や檀信徒を巻き込みながら、組織化し、それに伴い、活動の対象も個人から共同体へ、また支援内容も物資の提供による支援から、当事者の自立支援へと変化してきており、格差や貧困の実態に触れてもらうため、高校生をフィリピンに派遣する交流育成事業にも取り組んでいます。これらの活動の変化は、貧困問題の本質に迫ったからこその成熟であると評価され、理事の総意として第11回浄土宗平和賞授賞者とすることで決定しました。

浄土宗平和協会の基金に関する運用管理規程を一部改正

浄平協には、「協会の前身である浄土宗平和推進協議会の設立時から積立てられていた資金」および「協会の会計から繰り入れた資金」を平和基金とし、平成30年度末現在で1700万円あまりの残高を計上しています。この多額の基金の使途について、理事会等で議論した結果、会の活動資金として使用していくことといたしました。そのために、「浄土宗平和協会の基金に関する運用管理規程」の一部改正を平成30年11月12日に開催の理事会において決議、同日からから施行しました。

令和元年度の予算から、基金の一部を事業費に充当いたします。

平成30年度事業報告

（平成30年４月～平成31年３月）

４月　正副理事長会議
　10日（火）13:00～／宗務庁（京都）

５月　事務局会議
　１日（火）13:30～／宗務庁（京都）
前年度会計監査会
　３日（木）・６日（日）
平成30年度総会
　10日（木）14:00～／宗務庁（東京）

７月　会報ダーナVOL.32（年次報告書）発行
平成30年度会費請求、会員募集
正副理事長会議（専門委員を含む）
　２日（火）14:30～／宗務庁（京都）

９月　ブック・ギフト　応募要項配布
ブック・ギフト　応募者受付開始

10月　ブック・ギフト　応募締め切り
正副理事長会議
　18日（木）14:00～／浄土宗教化研修会館（源光院）

11月　第11回浄土宗平和賞募集
事務局会議
　８日（木）16:00～
第１回理事会
　12日（月）13:00～／浄土宗教化研修会館（源光院）

12月　平和念仏募金のお願い
第11回ブック・ギフトin TOKYO　希望図書授与式
　２日（日）15:00～／本山増上寺
第８回ブック・ギフトin KANSAI　希望図書授与式
　２日（日）15:00～／大本山百万遍知恩寺
第６回ブック・ギフトin NAGOYA　希望図書授与式
　16日（日）14:00～／建中寺

２月　正副理事長会議
　18日（月）13:00～／浄土宗教化研修会館（源光院）

３月　会報ダーナVOL.33　発行
第11回浄土宗平和賞募集締め切り
第11回浄土宗平和賞受賞者決定
第２回理事会
　26日（火）14:00～／宗務庁（京都）

平和念仏募金による支援NGO・NPO一覧

	団　体	プロジェクト名	援助額
❶	日本国際ボランティアセンター（ＪＶＣ）	南スーダン／スーダン国境近くでの紛争により難民になった子どもたちの支援と紛争解決に向けた住民の動きを促進する事業	￥500,000
❷	パレスチナ子どものキャンペーン	シリア／シリア避難民への食料配布事業	￥500,000
❸	反差別国際運動（IMADR）	ネパール／ダリット女性に対する暴力の削減プロジェクト	￥500,000
❹	こども食堂「寺子屋カフェ」	ひとり親支援「シンママ熊本応援団」	￥500,000
	計		￥2,000,000

平成30年度収支決算書

（自：平成30年４月１日　至：平成31年３月31日）

■収入の部

款	項	予算額	決算額
（1）会費		6,100,000	4,883,000
	①正会員会費	6,000,000	4,845,000
	②賛助会員会費	100,000	38,000
（2）寄付金		3,000,000	1,163,489
	①平和念仏募金	3,000,000	1,163,489
（3）助成金		1,050,000	750,000
	①浄土宗助成金	1,050,000	750,000
（4）雑収入		30,000	1,424
	①雑収入	30,000	1,424
（5）繰入金		1,000,000	1,000,000
	①基金繰入金	1,000,000	1,000,000
（6）繰越金		1,111,382	1,111,382
	①前年度繰越金	1,111,382	1,111,382
収　入　合　計		10,714,970	11,199,119

■支出の部

款	項	予算額	決算額
（1）事業費		7,510,000	5,418,995
	①NGO・NPO団体支援金	2,400,000	2,000,000
	②緊急救援資金	0	0
	③ブック・ギフト費	1,000,000	1,283,127
	④平和賞等関連費	550,000	0
	⑤ダーナ発行費	2,300,000	1,894,064
	⑥啓発・普及費	10,000	11,804
	⑦スタディツアー関連費	200,000	0
	⑧支部事業助成費	200,000	200,000
	⑨各種団体連帯費	150,000	30,000
	⑩調査研究連帯費	700,000	0
（2）会議費		1,560,000	1,176,491
	①総会費	160,000	158,440
	②理事会費	800,000	714,811
	③正副理事長会費	200,000	244,180
	④事務局会費	400,000	59,060
（3）事務費		1,100,000	875,960
	①事務費	1,000,000	875,960
	②旅費	100,000	0
（4）繰出金		1,000,000	1,000,000
	①基金繰出	1,000,000	1,000,000
（5）予備費		1,121,382	350,000
	①予備費	1,121,382	350,000
支　出　合　計		12,291,382	8,821,446

平和基金	17,741,254
平和基金	17,741,254

浄土宗平和協会 年次レポート

令和元年度 事業計画

今年度の協会事業は、機関紙【DANA】発行、【ブック・ギフト】、【浄土宗平和賞】、【NPO・NGO支援】等々、従前の事業をいっそう力強く推進してまいりますが、新しく、次の二つの事業を企画いたしました。

その一つは、次代を担う高校生を対象した【平和作文】募集事業です。高校生の平和に対する考えや想いを広く募り、秀でた作品についてはこれを顕彰し、また広く宗の内外に紹介させていただきたいと考えています。

その二つは、数年来の課題となっています「戦争責任」に関する史資料の分析です。対象となる史資料は、すでに浄土宗総合研究所において整理されている宗報記事や当課題の分析に必要となる新しいし資料・文献などです。分析は、この分野に精通する専門委員を中心に進め、そのまとめを宗当局に提出する予定です。懸案課題でもあり、なるべく早期にまとめの提出ができることを望んでいますが、拙速にならぬよう慎重に進めて参りたいと考えています。

なお、昨年度から始めております【ヒバクシャ国際署名活動】（協力事業）につきましても更なる推進をと願っております。

（理事長　広瀬卓爾　記）

高校生の『平和についての作文』を募集

浄平協では、新たな取り組みとして、次代を担う高校生の「平和への想い」をテーマに作文を募集いたします。

この事業は、高校生の「平和」への想いや考え等々を知り、浄土宗寺院ならびに教師が、若い世代に対し「平和」について働きかけるために今後取り組むべきことを見つけることを目的に実施するものです。

今年度は、７つの宗立宗門高等学校に在籍している生徒を対象に募集いたします。

ブック・ギフトは東京、関西、名古屋で今年も実施

ブック・ギフト事業は東京で12回目を数えます。９回目の関西、７回目の名古屋と例年通り３地区で開催します。

今年も希望図書の上限金額を２万円と実施しますが、希望図書が本事業の趣旨に適したものであるかどうかなどについての検討を行うなど、授与にあたっては慎重を期したいと考えています。

授与式は東京では大本山増上寺にて12月８日に、関西では大本山百万遍知恩寺にて12月15日、名古屋では名古屋市建中寺にて12月15日の開催する予定です。

第12回 浄土宗平和賞の募集をします

浄土宗平和賞は今年で11回目を数えます。毎年、宗教専門紙などにも大きく取り上げられており、優秀な宗内の人材を顕彰することができることは、たいへん意義深いことだと思います。

本年度も会員様からぜひ多くの推薦をいただき、公益のための活動を行っている浄土宗寺院・教師を顕彰し、支援したいと思います。なお、受賞者は、来年３月に決定する予定です。

今年も平和念仏募金でNGO・NPOを支援します

平成10年度から全浄土宗御寺院のご理解のもとに実施してまいりました平和念仏募金の呼びかけを今年度もまた12月に行う予定です。

平和念仏募金を原資としたNGO・NPO支援は、一事業５年という期間を設け、その活動によって、数多くの国内外の困難な状況に置かれている人々を間接的に支援してきました。

29年度より、国内NPOの支援も開始、今年度は昨年と同様に１団体の支援となりますが、今後は支援の拡大を目指します。

令和元年度事業計画

（平成31年４月～令和２年３月）

４月
正副理事長会議
　16日（火）14:00～／宗務庁（京都）

５月
監査会
　７日（火）15:00～／宗務庁（京都）
令和元年度総会
　14日（火）14:00～／宗務庁（京都）
第11回浄土宗平和賞贈呈式
　14日（火）15:00～／宗務庁（京都）

７月
ブック・ギフト　応募要項配布
高校生の平和についての作文　応募要項配布
会報ダーナVOL.34（年次報告書）発行
令和元年度会費請求、会員募集

９月
正副理事長会議
ブック・ギフト　応募者受付開始
ブック・ギフト　応募締め切り
高校生の平和についての作文　応募受付開始
高校生の平和についての作文　応募締め切り

11月
第12回浄土宗平和賞募集
第１回理事会

12月
第12回ブック・ギフトin TOKYO　希望図書授与式
　８日（日）15:00～／大本山増上寺
第９回ブック・ギフトin KANSAI　希望図書授与式
　15日（日）15:00～／大本山百万遍知恩寺
第７回ブック・ギフトin NAGOYA　希望図書授与式
　15日（日）14:00～／建中寺
令和２年度予算折衝
会報ダーナVOL.35　発行、平和念仏募金のお願い

２月
第12回浄土宗平和賞募集締め切り
正副理事長会議

３月
第２回理事会

事務局会　随時

平和念仏募金による支援NGO・NPO一覧

	団　体	プロジェクト名	援助額
❶	日本国際ボランティアセンター（JVC）	南スーダン／スーダン国境近くでの紛争により難民になった子どもたちの支援と紛争解決に向けた住民の動きを促進する事業	¥500,000
❷	反差別国際運動（IMADR）	ネパール／ダリット女性に対する暴力の削減プロジェクト	¥500,000
❸	こども食堂「寺子屋カフェ」	ひとり親支援「シンママ熊本応援団」	¥500,000
	計		¥1,500,000

令和元年度予算書

（自：平成31年４月１日　至：令和２年３月31日）

■収入の部

款	項	令和元年度予算額	平成30年度予算額
（1）会費		6,100,000	6,100,000
	①正会員会費	5,500,000	6,000,000
	②賛助会員会費	100,000	100,000
	③過年度会費	500,000	—
（2）寄付金		2,500,000	3,000,000
	①平和念仏募金	2,500,000	3,000,000
（3）助成金		950,000	1,050,000
	①浄土宗助成金	950,000	1,050,000
（4）雑収入		30,000	30,000
	①雑収入	30,000	30,000
（5）繰入金		500,000	1,000,000
	①基金繰入金	500,000	1,000,000
（6）繰越金		87,849	1,111,382
	①前年度繰越金	87,849	1,111,382
収　入　合　計		10,167,849	12,291,382

■支出の部

款	項	令和元年度予算額	平成30年度予算額
（1）事業費		6,010,000	7,510,000
	①NGO・NPO団体支援金	1,500,000	2,400,000
	②緊急救援資金	0	0
	③ブック・ギフト費	1,000,000	1,000,000
	④平和賞等関連費	550,000	550,000
	⑤ダーナ発行費	—	2,300,000
	⑥啓発・普及費	500,000	10,000
	⑦スタディツアー関連費	10,000	200,000
	⑧広報費	2,000,000	—
	⑨支部事業助成費	200,000	200,000
	⑩各種団体連帯費	150,000	150,000
	⑪調査研究費	100,000	700,000
（2）会議費		2,060,000	1,560,000
	①総会費	160,000	160,000
	②理事会費	800,000	800,000
	③正副理事長会費	200,000	200,000
	④専門委員会費	500,000	—
	⑤事務局会費	400,000	400,000
（3）事務費		1,100,000	1,100,000
	①事務費	1,000,000	1,000,000
	②旅費	100,000	100,000
（4）繰出金		0	1,000,000
	①基金繰出	0	1,000,000
（5）予備費		997,849	1,121,382
	①予備費	997,849	1,121,382
支　出　合　計		10,167,849	12,291,382

平和基金	17,241,254
平和基金	17,241,254

Dāna

Support Report

日本国際ボランティアセンター（JVC）

適切な保護者を持たない子どもたちを小学校に復帰させるために

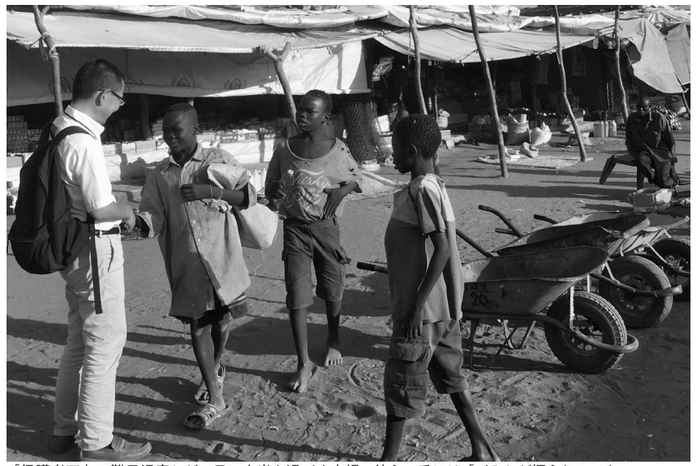
日本国際ボランティアセンター（JVC）は、アジア・中東・アフリカの 10 の地域で活動している国際ＮＧＯです。現地の人たちの知恵と自発的意思を生かす手助けを担うということを大切にした活動を行なっています。

浄土宗平和協会では、2003 年から支援を行なってきました。今年度は、「南スーダン・スーダン国境近くでの紛争により難民となった子どもたちの支援と紛争解決に向けた住民の動きを促進する事業」を支援しています。

今回は、イーダ難民キャンプにおける保護者のいない難民児童の小学校復帰支援について報告いただきました。

「保護者不在の児童」の実態

2017～2018年６月までは20人を対象として、「保護者のいない難民児童の小学校復帰支援」をしていましたが、子どもたちが生活する難民キャンプの中央市場（マーケット）での調査を踏まえ、対象人数を増やすこととなりました（2019年６月現在、対象人数は32名）。キャンプの難民自治組織のレポートによると市場で生活する「保護者不在の児童」の数は45名であると報告されていましたが、実際にJVCの現地スタッフ、日本人事業担当者による市場の巡回調査を行なってみると、１時間半の間に30人ほどの「保護者不在の児童」と出会いました。市場で暮らす子どもたちは、お店の手伝いをしながら生活費を稼いだり、物乞いをしたりしてその日凌ぎの生活をしていました。



「保護者不在の難民児童」が一日の大半を過ごす市場。彼らの手には「ごみ」が握られていた。

市場にある映画鑑賞のための店（簡易映画館、ネットカフェのようなもの）は、彼らのたまり場となっており、多くの子どもたちが屯していました。そのうちの何人かは自分の寝床がなく、その店の周辺で一夜を過ごしているようでした。現地スタッフが言うには、「正確な人数はわからないが少なくとも100人以上はいる。難民自治団体が調査したのは１、２日程度で、登録するのに名前や家族ステータス、経緯などを記入するため一人一人に時間が掛かり、この45人という数字になっている」との事でした。その時に出会った２人の少年（ギスマラ・クア君とモザムール・アブダラ君）に話を聞くため、後日JVCの事務所へ来てもらうこととなりました。

２人はスーダン国内の同じ郡の出身で、2011年に南コルドファン州で起こった紛争当時はまだ幼かったため、イーダ難民キャンプに来た時期や年齢などは本人も把握していない様子でした（見た目から11～14歳と推測できる）。２人とも両親と死別あるいは離別し、イーダ内に頼れる家族や親族はおらず、市場でごみ拾いの仕事をしながら、その日暮らしをしていました。換金できそうなものを一日中集め続け、トレーダーにもっていき、それと引き換えに一日200SSP（100円）の報酬を受け取ります。

その日、彼らが身に纏っていたサイズが全く合っていないヨレヨレのシャツなどの衣服もすべてごみから拾ってきたものでした。また、日々の食事は、市場で誰かが食べ残した残飯を探して回ります。どうしても見つからないときは、ごみの中から食べられそうな物を漁っていると話していました。

彼らに毎日の決まった寝床はなく、市場で寝られそうな店の軒下などを探して朝を迎えています。さらに話を聞いてみると、南コルドファン州で経験した紛争の記憶を辿りながら、「空には飛行機やヘリコプターがたくさん飛んでいて、爆弾が落ちてくるのも何度も見た。空爆でお父さんの手足が切れ、そのまま死んでいくのを目の前で見た。その後のことや住んでいた村での生活はあまり覚えていないけど、お父さんのことは今でも忘れない。」と話していました。

学校生活と出会って

これまで「学校」というものを全く知らない２人でしたが、インタビューの次の日に、JVC事務所で必要な学用品などを受け取り、スタッフに連れられて受け入れ小学校へと向かいました。

その後、JVCが提供する給食支援や土曜日クラスなどの支援を継続的に授受しています。毎週の土曜日クラスでは、朝８時から11時まで語学学習のためのビデオ鑑賞、スポーツ活動やお絵かき教室に加え、石鹸の配布と食事提供などを行なっています。少なくともこの時間は子どもたちが市場で過ごすことなく、自分の居場所ができ、決まった時間に食事を取る事ができます。

さらに、「保護者不在の児童」の受け入れ家族や小学校を訪問し、生活のモニタリングを実施しながらインタビューを実施すると、子どもたちの抱える不安や辛さを吐露する姿、また他方で、学校で勉強できることの幸せを嬉々として話す姿が見られました。話を聞いた子どもたちの中から２人の言葉を紹介します。

◇

ナジャド・ファドゥル・アリトゥトゥさん（14）

元々首都のハルツームに住んでいましたが、南コルドファンでの紛争勃発当時、偶然そこに暮らす祖母の元を訪ねていました。不運にもその紛争に巻き込まれ、叔父とともにイーダ難民キャンプへとやってきました。

「叔父が両親の連絡先や携帯電話を持っていないから、両親と離れて以来、連絡を取った事はない。ハルツームに帰って（両親に）会いたいけど、方法がわからない。今は、キャンプの中で勉強することだけを考えて過ごしている。好きな教科は算数と理科。英語は難しいからあんまり好きじゃないかな。2016年に一度、他のキャンプ（イーダと同州にあるUNHCRが運営するキャンプ）に移って、学校に行ったことはあるけど、一人だったし生活も大変だったから叔父さんのところへ帰ってきた」

◇

アルトゥーム・アブカラム君（18）

2011年、彼は当時15歳のお姉ちゃん、親戚と共にこのキャンプにやってきました。お父さんはすでに亡くなっており、お母さんはスーダン国内に残りました。

「お姉ちゃんと一緒に暮らしていて、小さな家庭菜園でソルガム（モロコシ）やピーナッツを育てている。自分も手伝いたいが、３年前に足を怪我した時の障害が残っていて、手伝うことが出来ない。足のケガを手術してくれたとき、病院で医師の親切な対応を受けたことから、自分もいつか医者になりたいと考えるようになった。一日の大半を家の中で過ごしていたが、頭に浮かぶのは『どうやったら学校にいけるのか、誰がそのための助けをしてくれるのか』ということだった。ある日、お姉ちゃんに『学校に行きたい』とお願いすると『今は行かせてやれないが、お姉ちゃんがなんとかする』と言ってくれた。なんとか学校にいくための最低限のお金（学費のみ）が集まり、学校に行こうとしていたその時、JVCのスタッフと出会って、支援を受けられることになった。今は一生懸命勉強をすることで頭がいっぱいだ。」

◇

JVCは今後も保護者不在の難民児童の復学支援、幼稚園運営支援を継続して実施するとともに、紛争によってスーダンと南スーダンに引き離された住民たちの橋渡し役として、和平につながる住民間交流の活動も予定しています。

Dāna

TOPICS

浄土宗平和協会では
ヒバクシャ国際署名への協力を
呼びかけています

川崎 哲（かわさき・あきら）氏
1968年、東京都生まれ。東京大法学部卒。学生時代から平和運動に携わり、2003年から国際交流ＮＧＯ「ピースボート」共同代表。10年にＩＣＡＮ副代表に就任し、14年から同国際運営委員。（17年秋、ＩＣＡＮはノーベル平和賞を受賞）

「ヒバクシャ国際署名」は、2016年４月から活動が始まりました。ヒロシマ・ナガサキの被爆者の訴えを国際社会に届けるもので、国連における2017年７月の「核兵器禁止条約」採択にも大きな影響を与えました。

平均年齢80歳を超えた被爆者が、「自らの体験を通じて、世界中の誰にもこのような経験をさせてはならない」という強い願いから、2020年末までの期間を設定して懸命に活動を続けておられます。

浄土宗平和協会では、この趣旨に賛同し、浄土宗各ご寺院様に広く署名を呼びかけることといたしました。

前回のダーナ発送時にもお願いいたしましたが、趣旨にご賛同いただけますならば、ぜひご署名をお願い申し上げますとともに、ご寺族、檀信徒の皆さまにもお伝えいただければと思います。

ご署名いただきました用紙は、お手数ですが**「浄土宗平和協会事務センター」**（P12参照）まで郵送いただきますようお願いいたします。その他、署名用紙の扱いについての注意事項をまとめましたので、下記をご参照のほどお願い申し上げます。

●

◇署名の集約は定期的に行われています。なお、浄土宗平和協会へ寄せられた署名は、「ヒバクシャ国際署名」事務局（東京）へ責任をもって届けます。

◇署名用紙は署名面のみをコピー（モノクロでも大丈夫です）して、さらにご使用いただいても有効です。なお、同住所にお住まいの方々については、「〃」の記載ではなく、署名者ごとに住所の記載をお願いいたします。子どもの署名も有効です。

◇Webサイトからオンライン署名も可能です（サイトから署名用紙のダウンロードも可）。
【ヒバクシャ国際署名公式webサイト】
http://hibakusha-appeal.net

◇すでに、当署名をされている方もおいでかと存じます。その場合は、当署名活動をさらにご縁の方々にお勧めいただければ幸いです。

ヒバクシャ国際署名への協力のお願い

核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）国際運営委員、ピースボート共同代表
川崎　哲

「後世の人びとが生き地獄を体験しないように、生きている間に何としても核兵器のない世界を実現したい」2016年4月、平均年齢80才を超えたヒロシマ・ナガサキの被爆者が国際署名をはじめました。

2016年10月に56万、2017年6月に296万、同年10月に515万、2018年10月に830万、そして現在は941万以上の署名が集まり、1000万筆達成が視野に入ってきました。集まった署名は国連総会へ定期的に提出されています。

本年５月、その941万筆の署名目録が被爆者の代表の手により、ニューヨークで開かれた核不拡散条約（NPT）再検討会議の準備委員会に提出されました。私も同行しておりましたが、委員長をはじめ、受け取られる方々は、同署名の提出に敬意を表して対応くださっています。また、この署名累計数の増加は各国の外交官たちに、核兵器廃絶を強く願う市民の意志を伝えるものとなっています。実際、国連における「核兵器禁止条約」の採択（2017年７月）にも、この署名活動は大きな貢献をしました。今後、この署名は「核兵器禁止条約」に全ての国が加入することを求めながら、核兵器の完全廃絶の実現を願い、国内外で活動が高まってまいります。

ところで、「核兵器を持てば相手は核兵器の使用をためらうはず」といういわゆる核抑止論も、一般の人々にとってはそれなりの説得力があるようにも思えるかもしれません。しかし、「目を覚ませ」と説得力のある形で力強く、国際社会に訴えたのは宗教者の方々でありました。また、赤十字国際委員会が核兵器の「非人道性」について主張し始めた（2010年）ことにより、国際社会の潮流が変わり、今日に至っています。

ヒバクシャ国際署名は来年末までを活動の区切りとして展開されています。つきましては、日本の宗教界の皆さまに、ぜひご尽力をいただけることをお願い申し上げます次第です。本年2月から、浄土宗正明寺の森俊英住職の道案内により、被爆者の全国組織である日本被団協（日本原水爆被害者団体協議会）の代表者と私は、宗教団体本部を訪問し、協力を求めてきました。そして、手応えのある有難い反響をいただいています。特に浄土宗様におかれましては、全ご寺院へ署名用紙の送付や浄土宗平和協会様のホームページに同署名へのリンクを設置していただくなどの積極的な協力をいただいております（インターネットからの署名も可能です）。

感謝を申し上げますとともに、さらなるご協力を切にお願い申し上げます。

HIBAKUSHA APPEAL
ヒバクシャ国際署名

浄土宗平和協会（JPA）

国や信条を超え、「平和」という人類共通の理念のために、志を同じくする人々による連携をめざす継続的なネットワーク運動として、浄土宗平和協会は会員を募集しています。入会希望、問い合わせは下記事務局へ。

入会要項

浄土宗平和協会（JPA）の活動にあなたも参加しませんか？

正会員
対象……浄土宗教師・寺族
会費……年間 10,000 円

賛助会員
対象……檀信徒、企業や宗教法人以外の団体
会費……檀信徒会員年間 2,000 円
法人会員年間 10,000 円（一口）

賛助会員は、応援に感謝を込めて、会報ダーナに芳名を掲載します。
ご希望の方には詳しい案内が掲載された協会のパンフレット（入会用振込用紙つき）を同封いたしておりますのでご利用ください。

平和念仏募金のご協力のお願い

平和念仏募金は、各ＮＧＯやＮＰＯ団体への援助、私費留学生に希望図書を贈呈するブック・ギフト活動、浄土宗平和賞などの活動に充てられます。

何とぞご協力賜りますようお願い申しあげます。

◆平和念仏募金は、平和・環境・福祉・人権などの諸問題に取り組むための募金に充てられます。

◆①世界の人々に役立つ、②共に学びあう、③社会にアピールする、④新たな人材を発掘・要請する――との方針のもと、ＮＧＯやＮＰＯを支援しております。

◆私費留学生希望図書購入支援「ブック・ギフト」事業を行い、留学生の勉学支援をしています。

JPA 浄土宗平和協会4つ活動

1 平和念仏募金運動
2 ブック・ギフト事業
3 浄土宗平和賞
4 スタディツアー・NGO支援

浄土宗平和協会役員・スタッフ

理事長……廣瀬卓爾
副理事長……深谷雅子
山北光彦
理　事……東海林良昌
齋藤隆尚
小口秀孝
野上智徳
山川正道
名越邦博
永江憲昭
専門委員……戸松義晴
大谷栄一
茂田眞澄
大河内大博
参　与……荻野順雄
川副春海
監　事……倉井正則
山下裕通
事務局長……山川正道
事務局……池野亮光
小泉範幸
霜村真康
田中堅信
岩井正道

浄土宗平和協会
Jodo Shu Peace Association（JPA）
〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 浄土宗社会部
TEL：03-3436-3351　FAX：03-3434-0744
連絡・問合せ先：浄土宗平和協会事務センター
〒622-0003 京都府南丹市園部町新町火打谷５ 教伝寺内
TEL：0771-62-0442　FAX：0771-62-1620
メール：info@jpa-jodo.or.jp